

浜松観光ボランティアガイドの会

令和 7 年度定期総会開催

令和 7 年度定期総会が 4 月 21 日(月)、浜松地域情報センターにて会員 132 名中 109 名が出席し、浜松市副市長内藤伸二郎様、浜松市産業部観光ブランド振興担当部長中村卓也様、公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー常務理事金子哲也様、遠鉄アシスト(株)代表取締役社長米田典弘様、浜松城館長中嶋勇様、浜松まつり会館館長中村敏幸様、来賓 6 名のご臨席をいただき、開催されました。



総会冒頭であいさつする大見会長

開会のことば、そして会長のあいさつとなり、はじめに来賓の皆様への出席に対してお礼を述べた後、「当会は今年 19 名の新入会員を迎え、現在 132 名の陣容で県下最大のボランティアガイドの会であり、5 ブロックでの日々の活動に感謝申し上げます。そして昨年度の事業報告及び今年度の事業計画の審議をお願いします」とあいさつがありました。

次に来賓の浜松市副市長内藤伸二郎様よりあいさつをいただきました。



来賓を代表しあいさつされる内藤浜松副市長

「大阪・関西万博が開幕して 1 週間、いろいろな課題がありますが、その開催に合わせ、浜松にお客さまを呼び込もうと、エヴァンゲリオンを活用して市内周遊事業『シン・ハママツ計画』を実施します。その中で、『人類乗車計画 2025 スタンプラリー』を来年にかけて行い、誘客促進をしていきます。そして来年の大河ドラマ『豊臣兄弟!』にも期待を寄せています。貴会とは、今後とも事業を通して、日頃の活動でも連携してまいりたい。天候異常が続く中、健康に気をつけて活動されますように」と結ばれました。

来賓の方々が退席され、議長選出となり、鈴木猛二副会長が指名されました。

議事進行は令和 6 年度事業報告・会計報告並びに監査報告にはじまり、役員改選で新任、再任の紹介、新体制が発表されました。それから今年度の事業計画と予算が説明され、会則改正において理事会の廃止が提案説明された後、質疑応答では数人の方から質問、要望等があり、それぞれに役員からの回答がありました。その後、各議案について承認されました。

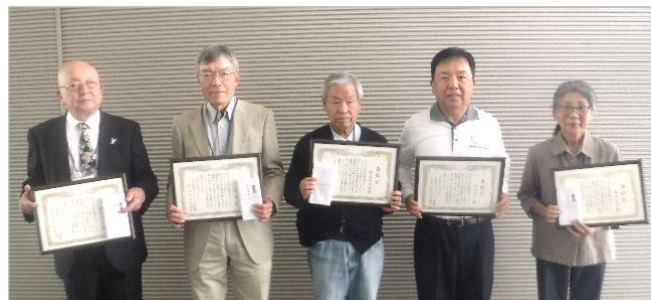
続いて勤続表彰となり 20 年表彰で 8 期の鈴木正身さん、10 年表彰で 18 期 5 人に表彰状と記念品を贈呈、鈴木正身さんからは「見学者からのお礼と励ましの言葉を頂いたことを通して今後も健康で、少しでも長く楽しく励んでまいります」との話がありました。



地域情報センターでの総会風景



20 年表彰の鈴木正身さん



10 年表彰の皆さん

桶田さん、谷さん、鮫島さん、杉山さん、藤田さん

最後に新入会員 27 期の皆さんの紹介があり、無事総会が終了しました。

広報部 山下安範(南ブロック)
鈴木正裕(東ブロック)

新人現地研修

“まつり会館と松韻亭”

【第11回 3月31日(月) 浜松まつり会館】

新人16名、26期2名、役員・研修部員11名の計29名参加。館長のあいさつに続き、ビデオを全員で視聴後、研修部の杉本さんから浜松まつりの詳細な説明がありました。

その後、2組に分かれて、組別にそれぞれ糸⇒事務所⇒凧⇒屋台 と 凧⇒屋台⇒糸⇒事務所を順に巡りました。糸のより方や糸目の付け方とその意味、合戦時の作法、屋台の動かし方など多岐に



まつり会館入口

わたる説明で浜松まつりの奥深さを感じ取れる内容でした。

会館内見学が終わると外は小雨模様になりました。命

山まで徒歩で行く予定でしたが、急ぎ会館内で桶田さんから命山の説明をしていただきました。新人に浜松まつり参加経験を確認したら、ほんの数名でした。浜松まつり当日への参加やまつり会館説明の機会を増やし、浜松の一大イベントである浜松まつりを熱く語る案内人を育成する必要性を痛感しました。

【第12回 4月17日(木) 松韻亭】

新人13名 研修部員3名の計16名参加。浜松城公園「せせらぎの池」で研修部部長の概要説明後、茶室へ向かいました。風もなく心地よい最高の日和となりました。

松韻亭正門をくぐり、しばらく坂を上り立礼(りゅうれい)茶席に入りました。茶席は貸し切り状態で、この季節にふさわしい「春水」というお菓子と抹茶をいただきました。

松韻亭は昨年亡くなった世界的建築家であり文化功労者の谷口吉生(よしお)氏の設計で、平成9(1997)年11月に開設され、27年を迎えたとのことでした。昨年は大河ドラマ後で入場者減が心配されましたが、実際は一昨年よりも多かったとのこと。茶室や茶席もさることながら、やはり松韻亭の見所は日本古来種の樹木よりなる庭園です。季節ごとにその姿を変える魅力を観光客に説明し入場者を増やすボランティアの役割を認識できる良い研修となりました。

広報部 長田勝久(西ブロック)



松韻亭へ向かう参加者

北ブロックミニ研修 雄踏町をめぐる

3月21日(金)、北ブロック14名で浜名湖東岸の雄踏町を訪ねました。「雄踏(おぶみ)」という地名は日本武尊が東征の折この地に立ち寄って「雄々しく踏み固めた地」から由来し、明治22年宇布見と山崎の二村を合併した時「ゆうとう」と音読みに改められました。



中村家住宅前で神田管理人と(右端)

今年3月になって真冬が続いたのですが、春分の日翌日ということで宇布見中村家住宅に集合した時には春の陽気でした。国指定重要文化財中村家住宅は徳川家康の側室お万の方が於義丸を出産した屋敷であることは有名です。主屋の中に入ると、管理人の神田さんから建物の概要について伺いました。また源範頼の末裔であり戦後は政界でも活躍した中村家の歴史や於義丸誕生についても詳しく説明してくださいました。

於義丸は家康の次男で、秀吉の養子(人質)に差し出された後、次の養子先で結城秀康となります。昨年は生誕450年ということで、浜松歴史講演も

企画され、福井市や結城市でも生涯を顕彰するイベントが開催されました。家康の次男でありながら苦労人であった秀康は、260年続いた江戸時代の樹立に重要な役割を果たしたのです。

続いて徒歩で息(おき)神社へ、飛鳥時代創建の格式高い神社です。10月にお祭りが開催されます。

その後、車で雄踏町を離れ養鰻場「大和養魚」を見学しました。

地下200mから汲み上げた水を温めて使用し、餌もとても新鮮でした。今年は稚魚が豊漁で価格も安かった。地下200mから汲み上げた水を温めて使用し、餌もとても新鮮でした。今年



うなぎ養殖池で社長の説明を聞く参加者

たとのこと、値下がり期待したのですが「石油が高値だから、鰻は安くならないよ」との声も聞かれがっかりでした。

次に山崎に移動し、古橋廣之進の生家とプール跡を見て、家康伝説の残る安寧寺へ行きました。立派な山門があったのですが、京都建仁寺に移築されてしまいました。昼食の釜飯を食べて楽しいミニ研修は終わりました。

広報部 高羽百代(北ブロック)

新入会員の入会動機



ガイドに関しては少し戸惑いもありましたが、「浜松のことをもっと知りたい」という気持ちがあり応募しました。その背景には定年を迎え時間に余裕ができたことも大きな要因です。それでも、浜松城や浜松のヒト・モノ・コトなどについて教えていただければ十分で、ガイドにならなくてもいいかなという気持ちはありました。そのような中、会が進むにつれ一人また一人と知りあうことができ、「やはりガイドをやってみよう」という気持ちになりました。新しい人との出会いや、自分の居場所というか所属を求めているのだと実感しました。今後ガイドを行う中で、言わなくてはいけないことを言わなかったり、また言わなくてもいいことを言ってしまったら・・・など失敗があると思いますが、皆様のご指導やご協力を賜りながら、まずは普通のガイドを目指したいと思います。皆さんよろしくお願いします。

東ブロック 大場康弘



68歳で退職して7年になります。昨年の3月迄はボランティア活動として、デイサービス等で演歌や歌謡曲など歌って、高齢者の方に喜んでもらえるよう活動してきましたが、施設が廃業になり、中断してしまいました。自分にできそうな、ボランティア活動はないかと探していたところ。浜松市の広報で〈浜松市の観光ボランティアガイドの募集〉を見て、応募となりました。75年間、浜松市に住んで居て、浜松市の文化や遺産、歴史など関心も薄く、勉強の機会も無く、過ごしてきたので、自己啓発と浜松に来られた方に浜松の魅力と良さを知ってもらえ、そのお手伝いができたらと思い、入会を決めました。新人研修でたくさんのことを教えていただき、大変勉強になっています。早く先輩方のように一人前のガイドになれるように努力しますので、よろしくご指導くださいますようお願いいたします。

南ブロック 金谷 昇



歴史好きのお仲間からこのボランティアのことを知り、興味をもちましたが、研修を受けるごとに「大丈夫かなあ？」と不安が募るばかりです。

仕事もあり、あまり活動できないかもしれませんが、できる範囲で真面目に楽しく出来たらと思っています。

家族揃って歴史が好きで、大河ドラマのゆかりの地、史跡、寺社などを巡りつつ、ご当地グルメも楽しんでいます。特に武田信玄公びいきで、私の誕生日は信玄公の命日と同じなのも嬉しい偶然です。

北ブロック 中内久美



65歳になって会社に行くのが終了しました。そこで、いろんな事をやることにしました。観光ボランティアもその一つです。他には動物園ボランティア、声のボランティアをやろうとしています。観光ボランティアをするのには、いろんな事をおぼえなくてはならないです。でも、記憶力に自信がないのでわからなかったら助けてください。

生まれは中沢町ですが、中学・高校と浦和市（埼玉県）、千葉市（千葉県）で過ごし、就職で浜松に戻ってきました。浜松の事は、あまりわかっていません。よろしくお願いいたします。

南ブロック 藤原誠之



一つは自分の年齢とこれまでしてきた仕事です。今年の2月で65歳となり3月で定年退職となりました。設備や機械をあつかう、また、若いころは海外工場の仕事をしてきたため、余りに自分の住んでいる地域と歴史の知識がないことに気づき、これはいけない調べてみたいと思ったことが動機の一つ目です。

二つ目は一つ目と重なるのですが磐田出身のため、浜松の過去の情報が希薄なことがあります。これは自分が今住んでいる地域の過去から現在までの変遷等に興味を抱き浜松のことを勉強してみよう、どうせなら地域に貢献できるボランティアに参加しようかなと決心する動機となりました。

最後はこれが一番大きいのですが好奇心が人一倍強いことです。中でも歴史、建築は大好きで昔から出張にいくと時間が許す限り、その土地の博物館や旧跡を訪ねてまいりました。浜松に観光にいらっしゃる方々と共通するところがあり相手の心の内を理解しやすいかなと考えています。

北ブロック 山下勝之

初夏を思わせるような陽気となった3月2日(日)、西ブロック15名と他ブロック5名で磐田市見付と中泉を散策しました。見付は日本橋から数えて28番目の宿場町で、同じ東海道筋の中泉とともに歴史スポットが数多く残ります。

集合場所の西光(さいこう)寺には、中泉御殿表門を移築した山門、徳川秀忠五女の和子(まさこ)が寄進した日限地蔵など貴重なものが残されていますが、本堂内はカラフルなLEDライトが輝くというギャップを感じるお寺です(お寺に気軽に来てほしいという思いから始めたようです)。

次に「日本造船の父」とも言われる赤松則良(のりよし)の邸宅跡(旧赤松家)では、敷地内の蔵を会場にした西ブロック堀内さんの写真展「生態写真で見るトンボの世界」を鑑賞し、歴史だけでなくトンボの生態についても学びました。

午後からは、磐田市埋蔵文化財センター、府八幡宮、遠江国分寺跡を回りました。磐田原台地周辺には900基を超える古墳があり、奈良時代には遠江国の中心地として国府が置かれていたことなど、この地が悠久の歴史を持つ場所であることを再確認しました。

そして徳川家康ゆかりの中泉(ちゅうせん)寺では、寺紋でもある葵の御紋が随所にあり、目を引かれました。



府八幡宮楼門にて

中泉御殿は、三方が湿地帯で囲まれ北側には堀と土塁という城と変わらない造りであり、一時的な滞在施設でも用心を怠らない家康の性格が伺えました。

最後の磐田市香りの博物館では、歩き疲れた体を香りで癒して笑顔で解散となりました。

西ブロック 磯部雅延

～訂正とおわび～

はままつ案内人会報4月号(273号)の2ページに誤りがありましたので訂正しておわびいたします。
「中ブロックミニ研修 旧西区周辺を回る」の投稿者中村香苗さんの所属ブロック 誤：西⇒正：中

4月のガイド活動 <明るく楽しくやらまいか>

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

<浜松城>

5日 土	阪急交通社	20名
18日 金	増井様視覚障害者2名, ヘルパー2名	4名
24日 木	袋井市立浅羽中学校	41名
27日 日	(株)ナガホリ	8名

<浜松まつり会館>

7日 月 マイフレンドグループ 30名

<犀ヶ崖資料館>

団体ガイド活動はありません

はままつ案内人会報 274号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2 (浜松城内)

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ https://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地